

2-2 協会・支部・会員企業の活動事例

各都道府県建設業協会や支部、会員企業は、自然災害発生時の応急復旧活動を始め、地域活性化の取組、河川・道路清掃等の環境美化、各種イベントの開催等による地域の住民の方々とのふれあいなど、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

令和4年度に顕彰した協会・支部・会員企業の社会貢献活動事例のうち、2-1で紹介した発表事例の他、次の48事例を紹介します。

No.	都道府県	協会・支部・企業名等	活動内容
1	岐阜県	一般社団法人 多治見建設業協会	令和3年8月の豪雨における災害復旧支援活動
2	京都府	玉井建設 株式会社	令和3年8月の豪雨における大雨に伴う災害復旧支援活動
3	鹿児島県	村上建設 株式会社	漂流軽石の除去作業
4	長野県	株式会社 栗木組	災害時において地元へ提供する防災資材の備蓄倉庫の設置
5	宮城県	佐藤技建 株式会社	「蔵王」に関連するまちづくりイベントへの積極的な協力
6	神奈川県	一般社団法人 神奈川県建設業協会 伊勢原支部	地域の草刈りボランティア活動
7	神奈川県	一般社団法人 神奈川県建設業協会 平塚支部	箱根駅伝コースの清掃活動
8	北海道	日本高圧コンクリート 株式会社	豊平川河川敷の美化活動
9	岩手県	中亀建設 株式会社	河川・道路の清掃活動
10	宮城県	千田建設 株式会社	道路の清掃美化活動
11	宮城県	株式会社 渡辺土建	登米市内の山林への植林活動
12	栃木県	株式会社 小金建設	五行川「花いっぱい」運動と称する環境美化活動
13	長野県	スワテック建設 株式会社	地域の美化保全ボランティア
14	長野県	木下建設 株式会社	道路の清掃美化活動
15	滋賀県	株式会社 明豊建設	水草の堆肥化による美化活動と自治体への寄付活動
16	兵庫県	株式会社 香山組	植樹活動及び道路の清掃美化活動
17	長崎県	大起建設 株式会社	道路の清掃美化活動
18	富山県	一般社団法人 富山県建設業協会 氷見支部	継続的な献血奉仕活動
19	福島県	株式会社 ノウチ工業	地域小学校の通学路除雪ボランティア活動
20	山梨県	一般社団法人 笛吹建設業協会 青年部会	小学校での建設機械等の乗車体験会
21	北海道	草野作工 株式会社	土木の魅力を伝える出前講座
22	愛知県	矢作建設工業 株式会社	学生へ「モノづくりの楽しさ」を伝える取組

No.	都道府県	協会・支部・企業名等	活動内容
23	宮城県	宮城建設女性の会2015	子どもたちへのイベントを通じた、建設業の魅力発信の取組
24	秋田県	一般社団法人 雄勝建設業協会	高校生を対象とした『建設業体験フェスタ』での建設業の魅力発信
25	千葉県	一般社団法人 千葉県建設業協会	仕事体験施設「カンドウ」に「工事現場」等のブースを出展
26	徳島県	一般社団法人 徳島県建設業協会	建設業魅力発信動画「Super cool professional ～カッコイイ、希望の持てる、建設産業へ～」の制作
27	福島県	石橋建設工業 株式会社	高等学校への建設業の魅力・意義を伝える出前授業
28	愛知県	株式会社 加藤建設	屋内土木公園「カルバートパーク」による建設業の魅力発信
29	富山県	株式会社 東城	地元観光地の巨石撤去による建設業の広報活動
30	富山県	日本海建興 株式会社	イベントで子どもたちの描いた絵を仮囲いに活用した イメージアップ活動
31	岩手県	一般社団法人 岩手県建設業協会 二戸支部	鳥インフルエンザ防疫活動
32	岩手県	一般社団法人 岩手県建設業協会 盛岡支部	豚熱 (CSF) 防疫活動
33	岩手県	一般社団法人 岩手県建設業協会 久慈支部	鳥インフルエンザ防疫活動
34	栃木県	栃木県那須南部建設業協同組合	豚熱 (CSF) 防疫活動
35	栃木県	一般社団法人 栃木県建設業協会 那須支部	豚熱 (CSF) 防疫活動
36	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会 桐生支部	豚熱 (CSF) 防疫活動
37	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会 前橋支部	豚熱 (CSF) 防疫活動
38	神奈川県	一般社団法人 神奈川県建設業協会 相模原支部 一般社団法人 神奈川県建設業協会 津久井支部	豚熱 (CSF) 防疫活動
39	山梨県	一般社団法人 甲府地区建設業協会	豚熱 (CSF) 防疫活動
40	山梨県	一般社団法人 富士・東部建設業協会	豚熱 (CSF) 防疫活動
41	滋賀県	一般社団法人 滋賀県建設業協会 東近江支部	豚熱 (CSF) 防疫活動
42	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会	新型コロナワクチン職域接種の実施
43	岐阜県	一般社団法人 下呂建設業協会	新型コロナワクチン職域接種の実施
44	石川県	一般社団法人 石川県建設業協会	新型コロナワクチン職域接種の実施
45	京都府	一般社団法人 京都府建設業協会	新型コロナワクチン職域接種の実施
46	大分県	一般社団法人 大分県建設業協会 日田支部	新型コロナワクチン職域接種の実施
47	北海道	岩田地崎建設 株式会社	新型コロナワクチン職域接種の実施
48	北海道	株式会社 西村組	新型コロナワクチン職域接種の実施

災害復旧支援活動

事例

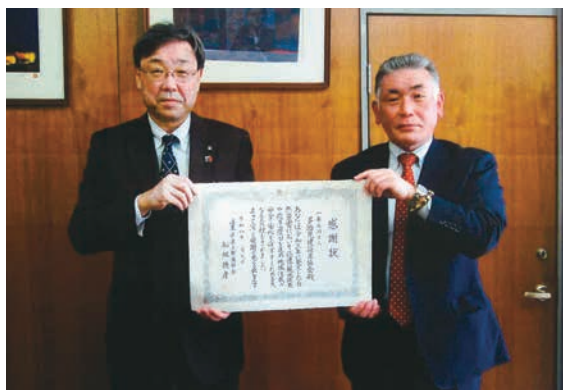
1

岐阜県

令和3年8月の豪雨における災害復旧支援活動（一般社団法人 多治見建設業協会）

令和3年8月16日（月）（主）恵那御嵩線（瑞浪市釜戸町地内）で発生した土砂及び流木の流出が見られたため、多治見土木事務所からの応援要請を受けて多治見建設業協会員が迅速対応した。

豪雨災害における迅速な応急復旧活動に貢献したことが認められ、岐阜県県土整備部長から、多治見建設業協会に感謝状が贈呈された。



感謝状を受領する松島理事長(左)



被災した現場の応急復旧状況

事例

2

京都府

令和3年8月の豪雨における大雨に伴う災害復旧支援活動（玉井建設 株式会社）

「宇治市矢落地内 擁壁・土砂崩落災害復旧」

令和3年8月13日未明より京都府南部に降った雨の影響で、宇治市矢落地内の宇治市管理の擁壁が崩落し、土砂が流れ込んだ。玉井建設では夏季休暇中であったが、職員・グループ会社職員共に現地入りし、昼夜土砂の撤去・崩落した擁壁の撤去を行い、大型土嚢によって仮復旧を行った。



工場にて大型土嚢作製



重機2台による土砂掻き出し

事例
3

鹿児島県
漂流軽石の除去作業 (村上建設 株式会社)

令和3年8月13日から15日にかけて、小笠原諸島の福德岡ノ場にて海底火山噴火があり、令和3年10月末に鹿児島県奄美群島において軽石の漂流・漂着が確認され、与論港（茶花地区）においては、船着き場及び前面泊地に漂着、また岸壁前に漂流があり、燃料タンカー船重油荷役不可の事態となった。

港内岸壁付近の軽石漂着漂流調査後、岸壁前面にクレーン付台船（立神8号）にて汚濁防止膜を準備し、タンカー接岸後、着火船（ISAMI1号）により汚濁防止膜を展張、サンドポンプにて軽石を除去した。この支援作業によりタンカーの入出港が無事に行われた。

また、与論港だけでなく、名瀬港、小湊漁港など鹿児島県及び奄美市の要請により、軽石除去作業を行っている。



与論島軽石除去 汚濁防止膜展張状況



与論島 軽石除去状況

防災支援活動

事例

4

長野県

災害時において地元へ提供する防災資材の備蓄倉庫の設置（株式会社 栗木組）

上田市旧丸子町の5つの近隣自治会（坂井、狐塚、石井、下長瀬、茂沢）と「災害時における防災支援（防災資材等の提供）に関する協定」を結び、防災資材備蓄倉庫を栗木組本社敷地内に設置し、災害発生時はいつでも防災資材を提供できるようにした。さらに、上田市旧丸子町にある八日町自治会とも「災害時における防災支援（防災資材等の提供）に関する協定」を結び、八日町自治会専用の防災資材備蓄倉庫を設置し、いつでも防災資材を提供可能にした。

また、令和元年の東日本台風（台風19号）により、当地域でも災害が多く発生したが、地元消防団の水防活動に必要な土のう等の資材を提供した。



栗木組本社 防災資材備蓄倉庫



八日町防災資材倉庫

地域活性化への取組

事例

5

宮城県

「蔵王」に関連するまちづくりイベントへの積極的な協力（佐藤技建 株式会社）

佐藤技建では「地域の皆さんが安全に快適に暮らせる街をつくりたい」という理念のもと、東北を代表する観光地「蔵王」へ至る観光道路「蔵王エコーライン」「ハイライン」の開通以来、維持管理や除雪を行っている。「蔵王エコーライン」「ハイライン」では毎年春の除雪後に10m近くの雪の壁の間を通る「雪の壁ウォーク」が開催され、除雪機のデモンストレーションを行っている。また、5月の新緑若葉の観光道路を自転車で駆け上る「蔵王ヒルクライムレース」では、道路の軽微補修や清掃に協力し、観光客増加と「蔵王」のイメージアップを図っている。

反面、「蔵王」は活火山で噴火災害の危険もあり、砂防流路工事も当社が施工している。その掘削土で町統合中学校用地造成を行っているが、春先に粉塵が舞い上がって周辺民家に影響しないように、当社独自で用地造成地周囲に防塵ネットを設置し快適な地域生活空間の創造に貢献したことから、蔵王町教育委員会より感謝状を贈られた。



用地造成地周囲に設置した防塵ネット

環境美化・保全活動

事例

6

神奈川県

地域の草刈りボランティア活動 (一般社団法人 神奈川県建設業協会 伊勢原支部)

神奈川県建設業協会伊勢原支部では、地域貢献活動の一環として市道周辺の草刈り活動を実施している。

令和3年度は、11月11日午前8時から午後3時まで、会員企業28社から71人が参加し、市内14箇所を実施した。当日は雑草運搬のため会員所有のパッカー車6台と、市役所からの車両協力もあり、6班に分かれて下水道処理センター周辺の水路護岸や、急傾斜により市民では作業が困難な法面などの箇所を中心に、約5,000㎡、5.6tの雑草を処理した。



事例

7

神奈川県

箱根駅伝コースの清掃活動 (一般社団法人 神奈川県建設業協会 平塚支部)

神奈川県建設業協会平塚支部では、全国から注目を集めている新春の風物詩、箱根駅伝の開催に先立ち、往路4区、復路7区になる国道134号の清掃活動を実施している。

令和3年度は、12月15日、会員企業32社から54人が参加して3班に分かれ、箱根駅伝を走るランナーが気持ち良く走れるよう、約6.5kmにわたり歩道の清掃活動、点検等を行った。



事例
8

北海道
豊平川河川敷の美化活動（日本高圧コンクリート 株式会社）

日本高圧コンクリートは数少ない北海道の橋梁専門家として、本社が所在する札幌市を流れる代表的な河川『豊平川』の河川敷約1kmの清掃を平成21年から年に2回、毎年継続して行っている。

この活動は令和4年で14年目（26回）となり、早朝から40人以上の社員が、時には降雨や積雪で真っ白になった河川敷といった状況においても自主的に参加している。

今後も自社で施工した南7条大橋をスタート地点として、地元を流れる豊平川で沢山の笑顔と熱い想いを胸に活動・貢献していきたい。



第1回(H21.05.02) 清掃状況【南7条大橋左岸側】



第16回(H28.11.05) 集合状況【雪】

事例
9

岩手県
河川・道路の清掃活動（中亀建設 株式会社）

中亀建設では長年にわたり、春と秋の年2回、北上川流域の明治橋から南大橋までの河川敷でゴミ拾い等の清掃活動を実施している。近年は、道路ふれあい月間（毎年8月）にも会社の周りの道路清掃活動を実施。また、自社敷地内に飲料の自動販売機を設置し、その収益のすべてを特定非営利活動法人「いなほ」に寄付している。



会社周辺の道路清掃状況



自動販売機の収益を寄付

事例
10宮城県
道路の清掃美化活動 (千田建設 株式会社)

地域の環境美化・保全活動に取り組むため、千田建設は「スマイルサポーター」の認定を受け、「みやぎスマイルロード・プログラム」として、平成26年10月より春と秋の年2回、道路美化活動を実施している。宮城県が管理する道路（主要地方道大和松島線、利府松山線）の歩道、路肩、緑地帯等において、定期的に清掃作業や緑化作業、除草作業等のボランティア活動を行い、良好な道路環境づくりに積極的に取り組んでいる。

今後も、常に道路を清潔で良好な状態に保てるよう、「スマイルサポーター」としての活動を継続していきたい。



スマイルロード・プログラム 清掃活動状況
(主要地方道大和松島線) (R3. 4. 22)



スマイルロード・プログラム 清掃活動状況
(主要地方道大和松島線) (R3. 10. 21)

事例
11宮城県
登米市内の山林への植林活動 (株式会社 渡辺土建)

渡辺土建では、平成17年より地域の森林組合の協力をいただき、登米市内の山林への植林作業による環境保全活動を行っている。当初は新築住宅一軒につき数本の植樹を行っていたが、住宅建材や建設工事での登米市産材の活用促進や企業の環境保全意識高揚が求められる時代の流れとともに、本活動の目的も環境保全へシフトし、現在ではSDGsゴール12、15、17を目的に掲げ活動している。今後も、持続的な地域の発展に寄与できるように活動を続けていきたいと考えている。

ゴール12: つくる責任・つかう責任 天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。

ゴール15: 陸の豊かさを守ろう 森林の持続可能な管理の実施を促進し、植林と森林再生を増加させる。

ゴール17: パートナースhipで目標を達成しよう 様々なパートナーシップの経験や資源戦略をもとにした、効果的な官民のパートナーシップを推進する。



作業開始前に植え付けを行う『少花粉杉』についての説明を、津山森林組合の方より受ける。



作業風景 伐採の終わっている山肌に新たに『少花粉杉』の杉苗を植え付ける。

事例
12

栃木県
五行川「花いっぱい」運動と称する環境美化活動（株式会社 小金建設）

小金建設は平成9年より、五行川の五行橋付近に花を植え、花壇を管理する作業を毎年継続して行い、環境美化活動に努めてきた。

令和3年11月25日、栃木県道路河川愛護連合会により開催された「河川・道路愛護コンクール」では、河川・道路愛護意欲の普及や啓発に寄与する活動と称えられ、フラワー部門で特別賞を受賞している。



花植え状況



特別賞受賞

事例
13

長野県
地域の美化保全ボランティア（スワテック建設 株式会社）

スワテック建設は、平成7年に諏訪市へ本社を移転し、以降26年間毎年春と秋の2回、全社員（参加者約80人）が就業時間前に集まり、社屋を建てた諏訪市みどり区内を中心に地道に地域のゴミ拾い・環境美化に取り組んでいる。

また、区内を通る幹線道路の路肩・緑地帯についても年間を通じ、社員がグループで担当場所を決め、年間スケジュールに沿って草取り・草刈り・樹木の選定などを数年ごとに実施し、環境保全に取り組んでいる。

これらの活動は社屋が建つ地元みどり区への感謝の気持ちと、企業理念体系に基づき美しい未来環境を造り、豊かな地域社会の発展に貢献するため、全社員が一つとなり積極的に活動している。



道路のゴミ拾い

事例
14

長野県
道路の清掃美化活動（木下建設 株式会社）

木下建設は、毎年11月に飯田市中心部の桜並木の落ち葉清掃を行っている。落ち葉清掃は地域の皆様が行っている作業のお役に立ちたいと、20年前から毎年40人ほどの有志で2時間程かけて行っているもので、平成29年には大宮通り桜並木保存会より感謝状をいただいた。

地域の皆様に感謝の気持ちを込めて、これからも継続的に行っていきたい。



桜並木の落ち葉清掃



新聞掲載

事例
15

滋賀県
水草の堆肥化による美化活動と滋賀県への寄付活動（株式会社 明豊建設）

琵琶湖で大量に発生する水草は、固有種の魚介類のすみかを奪い、漁船のスクリューに絡まり悪臭を放つなどの弊害が多いため、明豊建設では水草を堆肥化し環境改善につなげている。さらに、水草の様々な菌の作用により病原菌を寄せつけない効果や作物の成長、土壌改良を促す効果が実証されており、堆肥化した水草を「湖の恵」として商品化し全国に販売すると共に、「美しい琵琶湖を次の世代に引き継ぐ」為に販売代金の一部を毎年、滋賀県に寄付している。



滋賀県への寄付・感謝状の贈呈



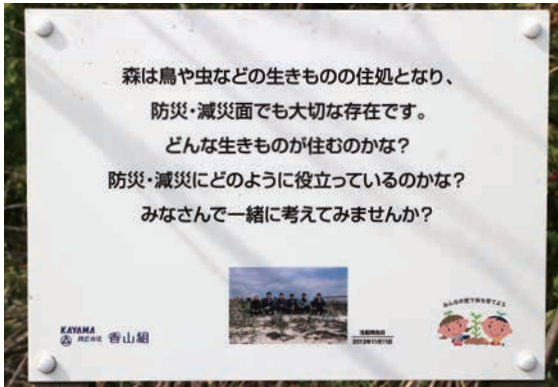
読売新聞

事例
16

兵庫県
植樹活動及び道路の清掃美化活動（株式会社 香山組）

平成24年2月より、兵庫県による尼崎21世紀の森構想に参画し、香山組内において苗木の育成及び公園内での植樹活動を行っている。平成25年11月より森づくりエリア内に自社専用の管理エリアを持ち、定期的に除草、植樹活動を行っている。

また、令和3年3月より、近畿地方整備局の「ボランティア・サポート・プログラム」へ参画し、毎月定期的に本社沿道の国道にて清掃活動を行っている。



森づくりエリアでの除草、植樹活動

事例
17

長崎県
道路の清掃美化活動（大起建設 株式会社）

大起建設は、長崎県一般県道大里森山肥前長田停車場線における、干拓の里から不知火橋までの道路の清掃活動等を平成26年度より年2～3回実施しており、除草作業、ゴミ拾いなどの清掃活動で地域の環境美化・保全活動に取り組んでいる。



ボランティア活動清掃状況 大里森山線 不知火橋付近



ボランティア活動清掃状況 大里森山線 干拓の里付近

社会福祉活動

事例

18

富山県

継続的な献血奉仕活動 (一般社団法人 富山県建設業協会 氷見支部)

富山県建設業協会 氷見支部では、万が一労働災害が起きた場合の対応として血液の確保が重要であること、献血者が不足している状況などを踏まえ、少しでも社会貢献したいと考え、令和元年より全国安全週間の協賛事業として30社余りの支部会員企業及び関係業界に働きかけ、献血奉仕活動を行っている。

令和3年度は、新型コロナウイルスの影響で労働安全大会などは中止となったが、依然として献血者が不足していることから、献血奉仕活動は継続して実施した。

【これまでの実績】 令和元年：39人 令和2年：33人 令和3年：37人



令和3年 支部にて実施



令和3年 献血奉仕活動状況

事例

19

福島県

地域小学校の通学路除雪ボランティア活動 (株式会社 ノウチ工業)

ノウチ工業では、地元の喜久田小学校、喜久田保育所周辺の歩道など通学路約1.2kmの除雪を20年以上続けて行っており、子どもたちが学校や保育所に安全で安心して通えるよう心掛けて作業している。また、遠くから通う子どもたちは保護者が車で送り迎えをすることから、学校の敷地内の除雪も併せて行っている。

この除雪作業については、喜久田小学校の児童の皆さんから感謝状をいただいております、ノウチ工業の社員にとって、とても励みになっている。

また、令和2年には、コロナ禍のため開催が危ぶまれた運動会の小規模開催が決定し、児童が楽しみにしていた運動会が少しでも良い思い出となるよう、校庭の整備に協力し、子どもたちにはとても喜んでいただいた。

これからも地域に根ざした企業として、地元の子どもの安全・安心と笑顔を守る活動を続けることとしており、子どもたちには将来人の役に立つ仕事に従事できる人に育ってもらいたいことを願っている。



H29.01.13 喜久田小学校ホームページ



感謝状贈呈 平成30年

事例
20

山梨県

小学校での建設機械等の乗車体験会（一般社団法人 笛吹建設業協会 青年部会）

笛吹建設業協会 青年部会では、平成30年度より建設業ふれあい活動の一環として『はたらくじどうしゃくらべ』と題し、笛吹市内の小学生を対象に建設機械等の乗車体験会を実施している。

令和3年度は、12月3日に笛吹市立石和東小学校で、1～4年生約100人が参加して、バックホウや振動ローラー、高所作業車の乗車体験やドローンの飛行実演も行った。

青年部会では、地域の未来を担う子どもたちに建設業の仕事を知ってもらい、興味を持ってもらい、建設業を身近に感じてもらえるよう期待して今後も継続していきたいとしている。



事例
21

北海道

土木の魅力伝える出前授業（草野作工 株式会社）

草野作工は平成30年より、土木に興味を持つキッカケとなるよう土木の奥深さや面白さを伝える授業を行っている。

同年、市内の小学校1校から始め、令和元年は中学校1校、令和3年は高校6校、大学1校、令和4年は高校2校、高専1校と活動を広げてきており、延べ400人程の児童・生徒・学生たちに講義をしてきた。

小学生から高校生には、社会資本と建設業の役割を説明し、身近な土木にまつわる秘話の紹介や、最新技術を実際に体験してもらう授業を実施。また工学系大学等には、これから学ぶ勉強に意義を感じ、楽しみながら勉強ができるよう北海道の土木の歴史や土木遺産の魅力を語るなど、聴講者に合わせて講義内容を工夫している。

子どもたちからは「建設業のイメージが変わった」「土木は面白そうだ」といった感想、また大学生からは、専門的なEPSや地盤改良方法などに驚いて一層の興味を持ったとの声が返ってきている（CE基礎セミナー）。

今後もこうした活動を積極的に行っていく考えである。



R4.02.08 旭川工業高等専門学校



北海道通信 R4.02.10掲載

事例
22

愛知県

学生へ「モノづくりの楽しさ」を伝える取組 (矢作建設工業 株式会社)

- ① 愛知県労働局主催で、令和3年度「ものづくり魂浸透事業」が開催されることになり、矢作建設工業は、「ペーパーブリッジから学ぶモノづくりの楽しさ」というテーマで参画した。

本企画では小中学校に出向いて、A5サイズのコピー用紙1枚で、どれだけ丈夫な橋を作れるかを競ってもらった。そのあとに、丈夫な橋を作るための簡単な橋の構造と身近にある橋梁を紹介し、橋の設計や建設に興味を持ってもらった。簡単なワークだが、多くの子どもたちがキラキラした目で取り組んでくれた。

(参加人数) 名古屋市立大森中学校 1年生160人 豊田市立寿恵野小学校 5年生115人

- ② 学童保育に來ている幼稚園から小学生までの子どもたちを対象に、当社の鉄道技術研修センターを見学してもらい、緊急ボタンを押す体験などをした。その後、「けんせつクイズ」と称して、レールの間隔やホームの高さ、駅での注意事項などを学び、夜中でも線路を守ってくれている人がいるということを知ってもらうための動画を見てもらった。動画視聴後には、子どもたちの拍手や感謝の声を聞くことができた。

(参加人数) 幼稚園～小学生 計101人

その他にも令和3年度には、見学会や出前授業等を通じ、延べ1,052人の子どもたちに建設業の魅力を伝えた。



ペーパーブリッジコンテスト



施設見学



施設見学



施設見学

事例

23

宮城県

子どもたちへのイベントを通じた、建設業の魅力発信の取組

(宮城建設女性の会 2015)

「宮城建設女性の会2015」は平成28年2月1日に設立し、建設業協会が主催する『夏休み宿題自由研究大作戦』、『建設ふれあいまつり』等のイベント実施に協力するなど、将来の担い手となる子ども向けの活動を通じて、広報活動を行っている。

また、建設産業における女性活躍の環境整備に向けて、建設産業に携わる女性を対象に「現場視察研修」等を開催し、女性の定着促進に向けた効果的な取組を実施した他、平成27年より毎年、年末に宮城県建設業協会の労務安全・環境委員会と合同で安全パトロールを実施、現場の安全管理について、女性の視点から安全指導等を行っている。

令和4年度は、小学生と保護者のリモート現場見学会や、小学生を対象とした光泥ダンゴワークショップ（出前講座）への実施協力や、建設産業に携わる女性を対象とした「3.11伝承ロード現場視察研修」を開催した。



みやぎ建設ふれあいまつり



現場等視察研修



年末安全パトロール



ワークショップ出前講座

事例
25

千葉県

仕事体験施設「カンドゥー」に「工事現場」等のブースを出展

(一般社団法人 千葉県建設業協会)

千葉県建設業協会は、令和3年12月17日から、千葉市美浜区にあるイオンモール幕張新都心内の仕事体験テーマパーク「カンドゥー」に「工事現場事務所」と「工事現場」の2ブースを出展した。「カンドゥー」は親子3世代で楽しめる仕事体験テーマパークで、ファッションモデルをはじめ、パイロットや警察官など約30種類の職業体験ができる施設。建設業界からの出展は初めてとなる。参加した子どもたちは、はじめに「工事現場事務所」のブースに集合し、今日の仕事内容について説明を受けた後、ヘルメットとベストを着用し、「工事現場」のブースに向けて移動。「工事現場」では、台風襲来により倒木や土砂で寸断された町の道路を啓開する場面を想定し、子どもたち一人ひとりが本協会オリジナルキャラクターの「建者」(けんじゃ)になり、道路に散らばる土砂に見立てたブロックを、ミニ建機やスコップ、一輪車などを用いて、2人1組で撤去して、通れるようにするストーリーを体験。作業を終えた子どもたちは、「現場事務所」に戻り、スタッフから名前が記入された「終了証」と疑似通貨(カッチン)を受け取った。

今回の広報活動については、建設専門紙に掲載された他、体験した子どもたちやその保護者などからのSNS(ツイッター)による発信でも数多く話題として取り上げられていた。また、熊谷知事も「カンドゥー」について、ツイッターで発信したことにより、建設業に注目が高まり、各所から「知事のツイートを見た」と反響があった。その他、仕事体験の感想レポートでは、「仲間と協力する大切さを学ぶことができた」「将来、建設エンジニアになりたい」という声が寄せられた他、想定していた男の子の体験人数より、女の子の体験人数(全体の56%)が多かったことなどが分かり、期待が持てる結果となった。また、このような多くの反響を受けて、当初、12月17日から1月16日までの1カ月間の出展を予定していたが、カンドゥー側から「3月14日まで延長してほしい」という依頼があったことを受け、約2カ月間延長することとなった。



業界紙が紹介記事を掲載



協会広報紙でも周知を図った

事例
26

徳島県

建設業魅力発信動画「Super cool professional ～カッコイイ、希望の持てる、建設産業へ～」の制作

徳島県建設業協会では、徳島県内はもとより、全国の中学生や高校生などの世代に向けて、建設産業の魅力発信することで建設業への入職を促進し、将来にわたり建設産業の維持及び発展を図るため、業界の魅力を伝える動画を制作し、県内の建設系学科を有する高校や関係機関等にDVDを配布するとともに、YouTubeでも公開し広く発信している。

本動画では、「建設業が生活の基盤を支え、街をつくり、まもる存在であること」。「キツイ、汚いなど3Kのイメージであったが、今は、coolにITを使いこなす産業に進化しつつあること」。「女性も活躍していること」。「大きな使命を感じ、汗を流し、橋やトンネル、道路などを完成させることで初めて見える景色が建設業の最大の魅力であること」。そんな建設業の魅力を伝えるオリジナルの歌詞をラップに乗せ、徳島県内の実際の工事現場で、工事中に撮影したリアル感ある映像と歌詞のキャプションをテンポよく切り替えることで、視覚と聴覚で直感的に伝える動画を制作した。



動画サムネイル



動画はこちらから

事例
27

福島県

高等学校への建設業の魅力・意義を伝える出前授業（石橋建設工業株式会社）

石橋建設工業は建設業を営む者として、地域の建設業の意義や魅力を高校生に直に伝え理解していただくことを目的に、工業系の生徒に対して出前授業を開催している。また、社会人になることへの不安を払拭できるように、当該高校を卒業し当社で活躍している技術者による実体験やアドバイスも行っている。

当該出前授業は、直接的に生徒と向き合って実施することで、業界の本気度や実態を理解していただくことができた。今後も可能な限り開催の機会を設けたい。

令和3年度の実施内容は以下のとおり。

日時：令和3年11月24日（水）14:25～15:15

場所：福島県立郡山北工業高校 視聴覚室

対象者：建築科1～2年生
計約80人

授業内容

あいさつ／会社紹介／当社施工実績（建築）／今のあなたへ伝えたいこと／bDパイルの有効性（免震・地中熱利用）／建設業に就いて（卒業生で当社の技術者によるアドバイス等）



郡山北工業高校出前授業の様子

R3.11.27
福島民友新聞社掲載

事例 28

愛知県

屋内土木公園「カルバートパーク」による建設業の魅力発信（株式会社 加藤建設）

「カルバートパーク」は、現場でよく使われるカルバートのある屋内公園施設です。2022年に弊社が創業110周年を迎えることから、創業の地を地域のために活用しようということで2021年11月にオープンしました。現在では土木を身近に感じながら楽しめる、憩いの場としてご利用頂いております。

施設の特徴としては、屋内に配置された様々な巨大カルバート。普段なかなか意識されないカルバートをオブジェのように配置し、そこを囲むように砂場や人工芝を配置、また通路を配置することで、より土木を身近に感じて頂ける空間になっております。

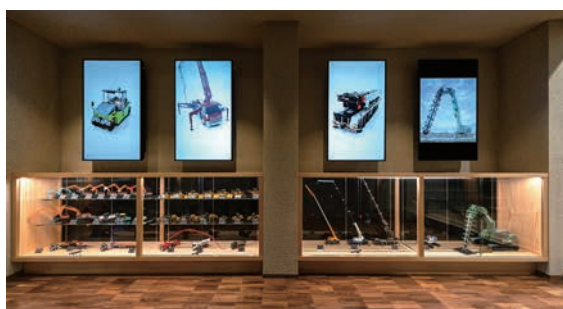
2階につながる通路には、デジタルサイネージがあり、建設業や自然環境が学べるクイズや弊社YouTubeのカトケンチャンネル、弊社の歴史ムービー「加藤の遺伝子」というコンテンツが入っております。2階に上がると、子どもたちのあこがれの的である工事現場で働く重機模型たちが所狭しと展示されており、人気スポットになっています。

その他には、コインランドリーとカフェ&ベーカリーも併設しており、子どもたちが遊んでいる時間に活用していただくなど、子育て世代の憩いの場になってほしいという願いが込められております。また、地元では「パンのまち蟹江」としてPRしていることからパン屋の独立支援の場として提供をしております。2階奥には、ワークショップルームもあり、会議や教室など様々な場面で地域の皆様にご利用頂ける場所になっており、最近ではダンス教室として地域の方々にご利用頂くなど広がりを見せています。

施設内に設置されているアンケートによると、来場者は10代～30代の方で約7割を占めており、親子での来場が多いという結果でした。ご意見・ご要望欄には「コンクリートの冷たいイメージが払拭されていてとても素敵。」など土木のイメージアップに繋がるコメントを頂いております。メディア関係では、地元テレビ局や中日新聞等に取り上げていただきました。

カルバートパークは、地元の皆様全般、特に未就学のお子さんをお持ちの子育て世代の方々中心に、天候に左右されない憩いの場としてご利用いただくことで、建設業をより身近に感じていただき、将来の担い手確保にも繋がればと思います。

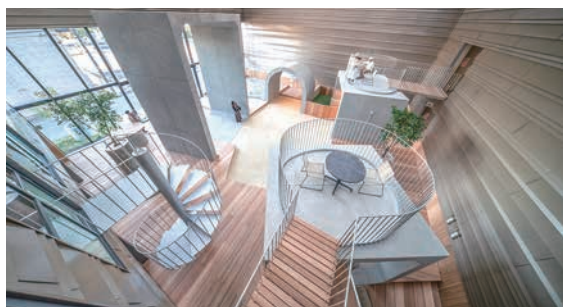
これからも地域の皆様と建設業の懸け橋となり、業界の魅力を発信していきたいと思っております。



重機模型展示スペース



子供たちに人気の砂場



室内に配置されたカルバート



カルバートパーク外観

事例
29

富山県
地元観光地の巨石撤去による建設業の広報活動 (株式会社 東城)

令和3年6月、富山市猪谷（細入）地内において国道41号の橋梁修繕工事を進めていたところ、猪谷地区の総代及び地元有志でつくる「常虹の滝を守る会」の方から、工事現場近くの観光スポットである、とやまの滝37選に認定されている『常虹の滝』に続く遊歩道をふさいでいる巨石撤去の相談があった。近年人手不足から、遊歩道など滝の周辺整備が困難になってきているとのことであった。

早速その日に巨石の状況を確認し、重機により撤去できると判断できたので、7月2日、重機及び東城社員3人で遊歩道中央から路肩への移動を無償で行った。地元の皆さんからは大変感謝され、当日はマスコミの取材もあった。



事例
30

富山県
イベントで子どもたちの描いた絵を仮囲いに活用したイメージアップ活動 (日本海建興 株式会社)

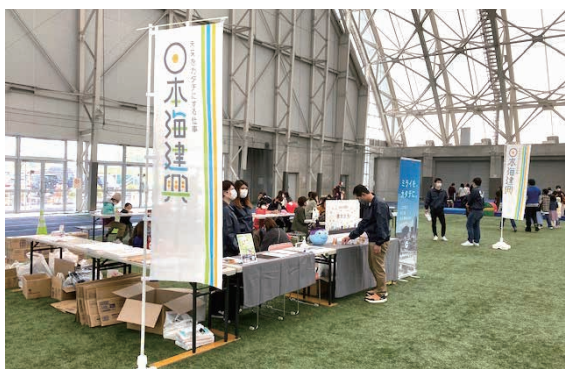
日本海建興では、令和3年10月17日に行われた「あすなろ王国物語 小さな勇者たちの冒険」のイベントに出展し、『みんなが想う夢のまち』というテーマで子どもたちに絵を描いてもらった。後日、その一部を富山駅北の当社工事現場の仮囲いに展示し、より多くの方々の目にとめていただくことで、建設業のイメージアップを図った。

当該イベントを通して、普段接する機会の少ない小さい子どもたちやその保護者等、来場された多くの方々に対して、当社の名前を通して建設業を知っていただく機会になった。

日時：令和3年10月17日（日）10:00～17:00 場所：富山県総合運動公園

イベント名：あすなろ王国物語 小さな勇者たちの冒険（特別スポンサー：あすなろ小児歯科医院）

※カターレ富山（Jリーグ）のホームゲームに合わせて、あすなろ小児歯科医院様が企画され当社も賛同し、出展した。



事例
31

岩手県

鳥インフルエンザ防疫活動（一般社団法人 岩手県建設業協会 二戸支部）

令和3年12月、青森県三戸町にて高病原性鳥インフルエンザが発生。岩手県の九戸地区孵卵場に三戸町の農場から種卵が入荷していることにより、種卵及びひなをすべて処分することとなった。岩手県建設業協会 二戸支部では、12月12日（確定当日）に岩手県との「家畜伝染病における緊急対策業務に関する協定」に基づき「積込・運搬作業」の要請を受け、重機・オペレーター等の手配を行った。12月13日、埋却地となる三戸町営地までの積込・運搬作業を実施。片道40kmの道のりをユニック車計7台で2～4往復し、深夜24:30最終運搬車が埋却地に向かった。

今回は積込・運搬作業が主となったが、今後も発生が懸念されることから、今回の課題を精査すると共に、埋却溝の掘削等への対応も考慮し、常に対応できるように体制を強化していきたい。



事例
32

岩手県

豚熱(CSF)防疫活動（一般社団法人 岩手県建設業協会 盛岡支部）

岩手県建設業協会 盛岡支部では、令和3年12月、家畜伝染病（豚熱（CSF））における処分家畜（豚）の運搬及び埋却の緊急対策業務を岩手県内で初めて実施した。

岩手県と岩手県建設業協会が締結している「家畜伝染病における緊急対策業務に関する協定」に基づき、岩手県より盛岡支部に対し埋却処分に関する要請があった。感染拡大防止のため、事案発生から短時間で防疫作業を行わなければならない、12月25日に至急、人員の確保や重機の手配を行うとともに、除雪及び埋却溝を掘り、殺処分した豚の運搬・埋却を行うなど防疫対応に大きく貢献した。



事例
33

岩手県

鳥インフルエンザ防疫活動（一般社団法人 岩手県建設業協会 久慈支部）

令和4年2月11日、岩手県久慈市で県内では初めての高病原性鳥インフルエンザの発生が確認され、岩手県建設業協会久慈支部は岩手県との「家畜伝染病における緊急対策業務に関する協定」に基づき、会員企業が発生農場からの積込・運搬と埋却地での埋却作業に、24時間2交代制で取り組んだ。3連休初日、第1報を受け、埋却（候補）地の確認、汚染物の運搬経路の確認、運搬路の路面凍結対応、重機や人員の手配、作業計画の策定を含め、埋却溝の試掘から汚染物の埋却、整地、立入り禁止柵の設置まですべての作業終了まで69時間を要した。

今回の活動に対して岩手県より副知事が来所され、感謝の意を伝えられた。

事例
34

栃木県

豚熱(CSF) 防疫活動（栃木県那須南部建設業協同組合）

防疫措置状況等

令和4年3月25日AM8:05、塩谷南那須農業振興事務所から「豚熱発生のおそれあり」との連絡を受け、栃木県那須南部建設業協同組合ではAM8:30烏山支部会館に対策本部（金澤代表理事）を設置し、対策委員長（関谷委員長）を中心に支部会員の現地対応班の人員配置及び資機材等の準備を始めた。

AM11:00農振事務所から現地確認の要請があり、合同による現地調査後に場内豚舎等配置図などを作成し、埋却地の検討を行った。PM7:30塩谷庁舎にて本部会議出席。PM8:30人員配置及び重機・資機材手配完了。PM8:30国の遺伝子解析検査の結果、陽性の連絡があり、3月26日早朝より作業を開始することとなった。3月26日AM7:30集合、重機等の準備を進め現地作業を開始。

現地は埋却場所が狭く、重機を使用しでの掘削作業が難航したが、掘削・埋却・埋戻しのローテーション作業を効率的に行うことで、殺処分された豚の埋却を順調に実施することができた。

埋却実施期間

3月26日～3月31日（6日間）

処理頭数：1,137頭

作業延べ人数：185人

レンタル機械：バックホウ他

那珂川の養豚場で豚熱
1200頭殺処分、埋却・消毒へ
県発表

県は25日、那珂川町の養豚場1カ所で豚熱(CSF)の感染を確認したと発表した。約1200頭を飼育しており、県は4月1日まで

に、殺処分や消毒など防疫措置を終える方針。今後、国の調査チームが原因を調べる。

令和4年3月26日：下野新聞

1137頭の殺処分が完了
那珂川の豚熱

那珂川町の養豚場で豚熱(CSF)が発生した問題で、県は28日、豚の殺処分が完了したと発表した。

同日正午現在、殺処分や消毒などに県職員や県那須南部建設業協同組合を中心に延べ751人を動員し

27日午後5時50分に対象となる1137頭の殺処分を終えた。28日の完了を見込んでいたが、天候が安定したことなどで作業が予定よりも早く進んだ。

令和4年3月29日：下野新聞

事例
35

栃木県

豚熱(CSF) 防疫活動 (一般社団法人 栃木県建設業協会 那須支部)

令和3年4月16日午後、那須農業振興事務所より那須塩原市内養豚場でCSFの疑いとの通報があり、栃木県建設業協会 那須支部では支部対策会議を招集したところ、同日、簡易検査陽性の連絡を受けた。

翌17日午前、那須支部連絡会議を招集し、人員・資機材の準備を進めた。17日18:00、陽性が確定し、24時間体制での防疫業務を開始した。

那須塩原市内3箇所が発生したため、班・シフトを構築し、当初の約1週間は4班24時間体制で実施。その後、昼間の作業に切り替えた。

期間 4月17日～5月19日

概要 処理頭数：39,362頭 作業員延べ人数：1,077人（指揮者を含む） 作業規模：3養豚場 掘削延長約850m 掘削量13,820m³ BH延べ日数347日 4tダンプ180日

県内初のCSF＝豚熱 殺処分対象の約38%実施 那須塩原

04/23日 20時20分



那須塩原市の2つの養豚場でブタの伝染病CSF＝豚熱の感染確認が発表されてから24日で1週間となるのを前に、県庁で対策本部会議が開かれ、23日正午までに殺処分の対象となるブタのうち、およそ38%にあたる1万3900頭余りを処分したと発表しました。

国内最多3万9362頭 殺処分終了 那須塩原の豚熱、発生から22日

5/10 8:15

県政 農林水産業 那須塩原



那須塩原市の2つの養豚場での豚熱(CSF)発生で、栃木県は9日、豚の殺処分が8日深夜に終了したと発表した。4月17日の発生から22日間

事例
36

群馬県

豚熱(CSF) 防疫活動 (一般社団法人 群馬県建設業協会 桐生支部)

令和3年8月6日、桐生市内の養豚農家から群馬県にCSF疑いの通報があり、県と国による検査を経て8月7日に陽性が確定。群馬県と群馬県建設業協会は「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」とそれに基づく細目協定を締結しており、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。

同日から埋却場所の仮囲いと掘削を開始。酷暑のため日中午後の作業を中止、夜間（概ね18:00～24:00）と午前（早朝～11:00）に3交代制で作業を継続し、8月26日に全ての作業を完了した。

同年8月に続き、11月25日にも桐生市内の養豚農家から群馬県にCSF疑いの通報があり、県と国による検査を経て11月26日に陽性が確定。群馬県から協力依頼の連絡を受け作業を開始した。

翌11月27日から埋却場所の現地調査を開始。28日から掘削と防疫フェンスの設置作業を開始し、12月6日に全ての防疫作業を完了した。

こうした取組が認められ、令和3年9月22日、群馬県知事から協会本部及び群馬県農村整備建設協会に、群馬県農政部長から桐生支部及び群馬県農村整備建設協会桐生分会にそれぞれ感謝状が贈られた。



作業状況



倉沢農政部長(左)から大川桐生支部長(右)へ感謝状贈呈

事例
37群馬県
豚熱(CSF) 防疫活動（一般社団法人 群馬県建設業協会 前橋支部）

令和3年10月から、前橋市内の養豚場で豚が相次いで死んでおり、10月18日、同養豚場から通報を受け、群馬県は簡易検査を実施。さらに国による遺伝子解析検査を行い、10月19日、陽性が確定した。

群馬県と群馬県建設業協会は「特定家畜伝染病発生時における埋却処分にに関する協定」とそれに基づく細目協定を締結しており、前橋支部は10月20日に埋却予定地の試掘と仮囲いを開始。21日から本掘削を開始し11月5日、全ての防疫作業を完了した。

本支部では、社会的責任において群馬県との協定に基づき、会員企業は懸命な防疫業務に従事した。本会行動指針で「地域を守る建設業の3つの備え」として、災害対応組織力の強化を掲げ様々な体制を築き、今回の豚熱発生に対する防疫作業においても、会員企業は使命感により連日連夜作業に取り組んだ。

こうした取り組みが認められ、令和3年12月14日、群馬県知事から協会本部及び群馬県農村整備建設協会に、群馬県農政部長から前橋支部及び群馬県農村整備建設協会前橋分会にそれぞれ感謝状が贈られた。



作業状況



倉沢農政部長(左)から泉野前橋支部長(右)へ感謝状贈呈

事例 38

神奈川県

豚熱(CSF) 防疫活動 (一般社団法人 神奈川県建設業協会 相模原支部、一般社団法人 神奈川県建設業協会 津久井支部)

令和3年7月に相模原市内で発生した豚熱に対する防疫対策について、神奈川県から協定に基づく活動の要請があり、神奈川県建設業協会の相模原支部及び津久井支部が活動を行った。

今回の防疫活動は、国内2例目のレンダリング装置を使ったもので、大規模となったことから、当初から様々な課題を解決しながらのものとなった。

相模原支部の活動は、相模原市建設業協会の協力を得て、酷暑の中24時間体制で行った。7月8日から始まった活動は、7月18日に4,109頭の殺処分と処理が終了し、その後、レンダリング装置の搬出、鉄板の消毒、防疫フェンス等の撤去、9月6日より借地した農地の現状復旧作業を実施。10月4日に全作業を完了させた。

なお、津久井支部においては、レンダリング装置設置場所の準備などを進めたが、レンダリング装置設置場所が相模原支部管轄となったことから、準備段階で活動を終了した。

- ・活動の基となる協定「家畜伝染病発生時における防疫業務に関する基本協定」
- ・活動期間 令和3年7月8日～10月4日
- ・主な活動
 - ①防疫フェンスの設置及び撤去
 - ②大型車通行表示看板の制作
 - ③レンダリング装置に伴う農地の整地転圧及び鉄板敷、活動終了後の撤去
 - ④レンダリング作業等に伴う建機のオペレーター
 - ⑤レンダリング機器の冷却水用の井水のホースの敷設・撤去
 - ⑥レンダリング装置撤去に伴うラフタークレーン、大型トラック手配
 - ⑦処分家畜の豚舎からの運搬
 - ⑧フォークリフトによる片付け作業
 - ⑨農地としての現状復旧
 - ⑩役員の動員・張り付き 等
- ・活動人員等
 - ①相模原支部 活動人員延べ433人、活動車両延べ226台
 - ②津久井支部 活動人員延べ 33人、活動車両延べ5台

また、本活動に対し、令和4年3月22日、当協会、相模原支部、津久井支部に神奈川県知事から感謝状が贈呈された。



ホイールローダーのバケットに処分家畜を移している



フォークリフトにより生成物を入れたペールを搬出用トラックへ積み込む作業

事例
39山梨県
豚熱(CSF) 防疫活動（一般社団法人 甲府地区建設業協会）

令和3年5月11日、中央市内の養豚農家でCSF（豚熱）の感染を確認。「家畜伝染病発生時における防疫対策業務に関する協定」に基づき、山梨県より協力要請を受けた。

そこで、甲府地区建設業協会では、防疫対策業務に取り掛かるために、対策本部を設置し、重機等資機材の手配、会員企業への協力依頼等対応を行った。

防疫対策業務は5月11日～19日まで昼夜を問わず行われ、会員企業約70社延べ300人が10班編成にて豚舎の解体、埋却溝掘削、殺処分豚・汚染物の袋詰め及び運搬、埋却穴吊り込み、埋め戻し等の作業を実施した。

今後も協力要請を受けた場合は、会員企業が協働して防疫対策業務を行い、地域に貢献していきたい。

事例
40山梨県
豚熱(CSF) 防疫活動（一般社団法人 富士・東部建設業協会）

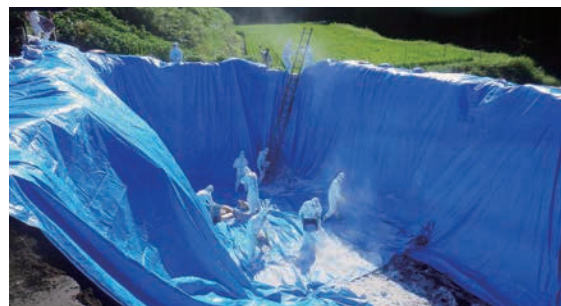
令和3年8月5日、南都留郡道志村大指の養豚場で家畜伝染病発生。8月6日にCSF確定後、山梨県より「家畜伝染病発生時における防疫対策業務に関する協定」に基づき要請を受けた。富士・東部建設業協会では直に対策本部を設置し、人員配置人数、担当者打合せ、使用資機材選定・手配等を行った。そのまま現場へ向かい、8月6日から昼夜交代で会員企業従業員・青年部延べ330人で、資機材搬入・設置、埋却溝掘削作業、殺処分豚の袋詰め・運搬、石灰の散布・埋却、埋め戻し等の作業を行った。

8月の猛暑に加え、コロナ禍、台風など悪状況も重なった中の作業だったが、9月17日にすべての作業が完了した。

今回の経験は、今後同じような協力要請があった際に地域への貢献として活かせる作業内容となったと思う。



作業前準備



作業中

事例
41

滋賀県

豚熱(CSF) 防疫活動 (一般社団法人 滋賀県建設業協会 東近江支部)

近江八幡市で確認された豚熱に関して、滋賀県から「家畜伝染病発生における防疫対応に関する協定」に基づく協力要請を受け、滋賀県建設業協会本部では、災害対策本部を立ち上げ対応を開始。

発生箇所である東近江支部では、令和3年10月5日～10日まで、昼夜を問わず掘削・埋却作業、及び資機材の調達の実施した。

本会では、日頃から県と定期的な会議、農場視察、及び防疫訓練を実施するなどして、県との連携、及び体制強化を図ってきた。また、東近江支部管内の豚熱発生は2例目で、前年には高病原性鳥インフルエンザも発生しており防疫活動の実績も積んできたことから、それほど難しい作業にはならないと考えていた。

しかしながら、この時期としては異例の真夏日が続いたことで、防護服に身を包みながらの作業はこれまで以上に過酷な環境となった。それでも事前の準備とこれまでの経験を活かし、さらには会員企業の尽力もあり、当初の計画を2日延長するイレギュラーな対応になりながらも、無事作業を完了し事態の収束に貢献できた。

こうした取組が認められ、令和4年3月24日に滋賀県畜産課から感謝状をいただいている。



消石灰散布



埋却溝投入

事例
42群馬県
新型コロナワクチン職域接種の実施 (一般社団法人 群馬県建設業協会)

群馬県がGメッセ群馬（高崎市）に設置する県営の県央ワクチン接種センターでの新型コロナワクチン優先接種枠の業種に、建設業が追加されたことが令和3年6月16日に発表された。

災害対応に当たる職種としての建設業は社会生活に不可欠と判断され、同日の記者会見で山本知事は、建設業をエッセンシャルワーカーに位置付けるのは群馬県が全国で初と強調した。位置付けの理由として、台風・豪雨等、災害の激甚化が深刻な問題となっていて、県民の安全と安心を守る「災害対応業務」の重要性が、近年は増加していることを挙げた。また、群馬県建設業協会の会員企業が、令和元年の台風19号による豪雨災害に対し、最前線でパトロールや応急復旧に従事したことや、冬季の除雪作業、更にはCSF（豚熱）発生時に防疫活動に従事したことなどを、山本知事は以前から高く評価していた。

同席した青柳会長は、一人でも多くの接種を進めて、台風シーズン前に強固な体制を築くため早急に対応すると述べた。

6月21日に開催した常任理事会において事務手続きを決定し、優先接種希望者の取りまとめを各支部に依頼。第一弾として会員企業の職員及び協会職員、建設事業協同組合の職員の接種希望者の名簿をまとめ、約5,200人が7月1日から接種を開始。8月8日に第一弾の2回目接種が完了した。

第一弾の接種が進行している中、支部のみに所属する会員及び本部正会員の協力会社従業員を対象とした第二弾の取りまとめも行い、約1,600人が7月19日から1回目の接種を開始。8月22日に第二弾の2回目接種が完了した。なお、正会員の協力会社の選定にあたっては、社会保険に加入していることを前提とし、災害時の応急対応で出勤実績のある会社、または今後緊急出勤を依頼することがある会社を、正会員企業の代表者の責任において選定した。その際、複数の正会員から重複して選定されないよう注意を払った。

接種を受けた会員企業の従業員は、台風シーズンの前に接種できたことは、復旧作業を行うにあたりとても心強く安心できたと話していた。

3回目のブースター接種が必要になったことを受け、令和4年3月1日から県央（高崎市）と東毛（太田市）の2会場に設置されたワクチン接種センターにて、希望者約3,000人の3回目接種を3月7日～13日に実施。年度内に希望者に対しての接種を完了できた。

単独の団体として医療従事者を確保し、職域接種を実施することが困難な中、群馬県のように地方自治体が設置した大規模なワクチン接種センターの稼働に合わせて優先接種枠を設けられたことは、他県の団体からも理想的との声が聞かれた。地域によっては優先枠のためのエッセンシャルワーカー認定ができない事例もあり、今回の群馬県建設業協会での優先接種がかなり早い段階で実施できたことは、全国的にも大きな注目を集めた。



山本知事と青柳会長の共同記者会見



接種状況

事例
43

岐阜県

新型コロナワクチン職域接種の実施（一般社団法人 下呂建設業協会）

下呂建設業協会は、下呂市や地域医療機関と連携し、職域接種の受付が始まった翌日の6月9日に申請を行った。出水期を迎え、令和2年7月豪雨の災害復旧工事を止めるわけにはいかないことや、県や市などの行政負担を減らし、下呂温泉といった観光地がある地域の集団免疫に貢献すること等を理由としてのスピード対応となった。現場からのコロナ発症リスクを少しでも小さくし、地域に貢献したいとの思いから、建設業団体主導では中部初となるコロナワクチン職域接種の実施となった。



一般紙(中日新聞・岐阜新聞)に掲載された記事

事例
44

石川県

新型コロナワクチン職域接種の実施（一般社団法人 石川県建設業協会）

石川県建設業協会は、協会会員及び家族を対象に、ワクチン接種に関する自治体の負担を軽減し、地域における接種の加速化を図るため、新型コロナウイルスワクチン職域接種を行った。令和3年9月～10月にかけて、石川県建設総合センターにて、1回目、2回目で計5日間実施し、延べ1,633人が接種を受け、地域における新型コロナワクチン接種事業の推進に寄与した。



事例
45京都府
新型コロナワクチン職域接種の実施 (一般社団法人 京都府建設業協会)

新型コロナワクチン接種に関する地域の負担を軽減し、接種の加速化を図ることで会員企業従業員等への感染拡大防止と正常な事業活動の推進に寄与し、ひいては地域社会や住民の安全安心に貢献できると判断し、京都府建設業協会が主催して、事務局職員を中心に職域接種の会場提供と運営を行った。協会会員企業及び関連企業等の従業員及びその家族などを対象に、第1回目を令和3年9月、第2回目を同年10月に行い、計16日間で延べ2,371人が接種した。

事例
46大分県
新型コロナワクチン職域接種の実施 (大分県建設業協会 日田支部)

大分県建設業協会日田支部は、県内の建設業団体として初めて「新型コロナウイルス感染症におけるワクチンの職域接種」を行った。対象は支部会員のみならず、日ごろから協力関係にある同市内の管工事組合・電気工事組合・生コン組合・測量設計組合に加盟する企業の従業員とその家族まで幅広く、地方自治体や地元医療機関の負担軽減は元より、国のワクチン接種事業の推進に大きく寄与した。

令和3年8月～9月にかけて、済生会日田病院にて、1回目・2回目計8日間実施し、延べ1,239人が接種を受けた。同支部青年部は職域接種を円滑に進めるため、毎回約15人を受付や誘導員として配置した。



会見する河津支部長(左)



受付を行う日田支部青年部

事例 47

北海道 新型コロナワクチン職域接種の実施（岩田地崎建設 株式会社）

岩田地崎建設では、新型コロナワクチン職域接種に関する政府方針の発表を受けて、感染拡大防止及び役職員・作業員等の新型コロナウイルス感染による工事中断のリスクを低減するため、役職員及びその家族、JV構成会社の職員、災害防止協力会の会員企業の他、得意先、取引先等で申出のあった企業様を含む希望者約70社2,500人（延べ5,000人）を対象に、得意先である医療機関のご協力のもと、1回目、2回目合わせて12日間の日程で職域接種を実施した。

実施した結果、役職員等への早期のワクチン接種ができ、また、接種率の向上に寄与することができた。

《実施日》

1回目：令和3年8月30日～9月1日及び9月10日～12日 6日間
2回目：令和3年9月29日～10月1日及び10月8～10日 6日間
合計12日間



事例 48

北海道 新型コロナワクチン職域接種の実施（株式会社 西村組）

令和3年9月及び10月に西村組による新型コロナワクチン職域接種を実施した。職域接種者は当社従業員、関連会社その家族のみならず、取引業者、所属協会の湧別建設業協会、湧別町商工会、湧別漁業協同組合、湧別町農業協同組合などにもご協力いただき、当初1,300人の接種予約となった。

その後、新聞広告、Twitterの投稿ではインプレッション51,211回を数え実際に接種に結びつくこととなり、建設会社としての取組を広く認めていただく機会を得られ、地域住民の皆様に対しても接種枠を広げるなどの努力により職域接種を開催することができた。

接種にあたっては、湧別町総合体育館を貸し切り、スタッフは代表取締役はじめ役職員が一丸となってオペレーションを検討し、接種日には土曜日を設定して副反応で欠勤する心配を緩和したスケジュールとすることとした。

また職域接種という枠にとらわれずに、自治体の集団接種ではカバーできない地域、職種の要望に応え、できる限りワクチン接種の機会を提供することができたことに対して大変感謝され、北海道新聞等にも掲載された。今後も継続して社会貢献に寄与する姿勢を続けたい。

